

## 平成24年度兵庫県大学図書館協議会研究会アンケート集計結果

(2012年10月23日、関西学院大学図書館ホール)

84名(38校)参加：回収枚数44枚(52.3%)

### ①研究会の内容

とてもよかった：30　よかった：12　普通：2　やや不十分：0　不十分：0

### ②講演および事例報告の難易度

よく理解できた：26　まあまあ理解できた：14　普通：4　やや難しかった：0  
とても難しかった：0

### ③今回の研究会についての意見

- ・アカデミックリンクの取り組みがコンセプト、サービス、現状と課題までトータルに理解できた。日本型のラーニングコモンズのように「ただ空間があるというのではない。」という考え方のもとで展開されていることに共感をもった。
- ・竹内先生のお話はとても興味深く参考になったが、実際自館で実施するとなるとどこから手をつけてよいか考えてしまう。
- ・千葉大学の事例は、図書館情報学の教員がいないとむずかしいと思われた。
- ・学長の理解が必要なことがよくわかった。
- ・現在の取り組みが間違いではないことを確認し、教員との距離をさらに縮め、関係を強化する必要があると感じた。
- ・伝統的な図書館業務は非専任がおこなうということは、時代の流れとはいえ、はっきり言われると専任のあり方を考えていかねばと思う。
- ・事例報告については、個別に対応したガイダンスと大量なゼミ(学生)数をこなすためにパターン化したガイダンスの対比を見ることができて、非常に興味深かった。
- ・事例報告の時間をもっと増やしてもらいたかった。(もっと聞きたい。)普段では聞きたくても聞けない具体例があげられていた。ワークシートもよかった。
- ・アカデミックリンクとガイダンスはある意味で関係があることを発見できた。
- ・講演は「ラーニングコモンズ」ぽくって、事例発表は「リテラシー教育」であったので、少しテーマがぶれているような気がした。
- ・知らないこともあり、勉強になったが、規模の大きい大学の事例は本学には参考にならなかった。予算の縮小、職員の減少という現実はこの大学図書館でも直面している問題であるが、今回事例発表された大学は比較的人員や予算が確保されている環境にあり、自身の所属する大学と比較すると、これらの取り組みが自分の現実的なものとするのが困難に思われて途方にくれる。うらやましいというのが正直な感想です。
- ・図書館利用をどのように向上させるかは非常に興味深い課題であり、「広報力」を發揮し、職員のパフォーマンス力を利用講習会等の体験を積むことによって育成してい

かなければならない。

- ・ 講演のパワーポイント資料を提供してもらいたい。
- ・ 事例発表については、図書館を利用している学生や教員の話が聞きたい。
- ・ 同じテーマで他大学の事例発表を聞いてみたい。

\* 今後、希望する研究会・研修会のテーマ

- ・ 教員と大学図書館の連携について
- ・ 先進的な取り組みに関する講演
- ・ 大学図書館の広報活動について
- ・ ラーニングコモンズの具体的な設置・運用について
- ・ 電子化全般、電子ブックの導入方法について
- ・ ディスカバリー・サービスの展望について
- ・ 総合目録の展望について
- ・ EJ契約や流通ルートの現状と値上がりへの対応について
- ・ リポジトリについて
- ・ 職員問題について
- ・ 学生サポーターについて（学生を取り入れた取り組み）
- ・ 業務委託導入について（契約について）
- ・ SNSなどの利用事例について
- ・ リエゾン・ライブラリアンプロジェクト（教員連携）の事例について
- ・ 大学図書館の展示
- ・ 図書の選書方法についての事例
- ・ 書架狭隘化対策について
- ・ 蔵書の取捨選択について